

産業廃棄物処理計画書

令和 7 年 6 月 30 日

新潟県知事 殿

提出者

住所 新潟県燕市杉柳127番地1

氏名 株式会社 繁原設備工業
代表取締役 繁原 貴雄(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 0256-63-9135

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

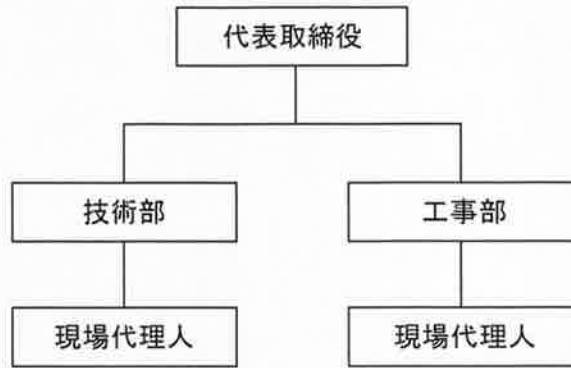
事業場の名称	株式会社 繁原設備工業
事業場の所在地	新潟県燕市杉柳127番地1
計画期間	令和 7 年 4 月 1 日 から 令和 8 年 3 月 31 日 まで

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	設備工事業
②事業の規模	55,000万円
③従業員数	19人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none">・アスファルト・コンクリート破片 処理業者へ委託→原料として再資源化・コンクリート破片 処理業者へ委託→原料として再資源化・石綿含有産業廃棄物→処理業者へ委託・金属くず 処理業者へ委託→原料として再資源化・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず・紙くず → 処理業者へ委託・木くず 処理業者へ委託→原料として再資源化・廃プラスチック類→処理業者へ委託・建設混合廃棄物→処理業者へ委託・石膏ボード→処理業者へ委託・汚泥(泥状のもの) 処理業者へ委託→原料として再資源化

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状		【前年度（6年度）実績】							
産業廃棄物の種類	廃プラスチック	紙くず	木くず	動植物性残さ	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類	建設混合廃棄物	
排出量	2.67 t	9.81 t	1.38 t	4.00 t	6.68 t	4.81 t	1,339.05 t	10.89 t	
産業廃棄物の種類	石綿含有産業廃棄物								
排出量	0.60 t								
(これまでに実施した取組)									
特になし									
② 計画		【目標】							
産業廃棄物の種類	廃プラスチック	紙くず	木くず	動植物性残さ	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類	建設混合廃棄物	
排出量	2.00 t	8.00 t	1.00 t	4.00 t	6.00 t	4.00 t	960.00 t	10.00 t	
産業廃棄物の種類	石綿含有産業廃棄物								
排出量	0.00 t								
(今後実施する予定の計画)									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 効率よく工事を進め工期を短縮し、工事全体の産業廃棄物を抑制する ・ 施工ミスなどによる無用な工事を行わないようにし、廃棄物の排出を抑制する 									

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 各現場にて排出された廃棄物の分別を行い、適正な処理業者へ搬出する
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 各現場にて排出された廃棄物の分別を行い、適正な処理業者へ搬出する

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状		【前年度（6年度）実績】							
産業廃棄物の種類	廃プラスチック	紙くず	木くず	動植物性残さ	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず陶磁器くず	がれき類	建設混合廃棄物	
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
産業廃棄物の種類	石綿含有産業廃棄物								
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
(これまでに実施した取組)									
② 計画		【目標】							
産業廃棄物の種類	廃プラスチック	紙くず	木くず	動植物性残さ	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず陶磁器くず	がれき類	建設混合廃棄物	
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
産業廃棄物の種類	石綿含有産業廃棄物								
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
(今後実施する予定の計画)									

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状		【前年度（6年度）実績】							
産業廃棄物の種類	廃プラスチック	紙くず	木くず	動植物性残さ	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず陶磁器くず	がれき類	建設混合廃棄物	
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
産業廃棄物の種類	石綿含有産業廃棄物								
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
(これまでに実施した取組)									
② 計画		【目標】							
産業廃棄物の種類	廃プラスチック	紙くず	木くず	動植物性残さ	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず陶磁器くず	がれき類	建設混合廃棄物	
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
産業廃棄物の種類	石綿含有産業廃棄物								
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト	ト
(今後実施する予定の計画)									

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度（6年度）実績】		廃プラスチック	紙くず	木くず	動植物性残さ	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類	建設混合廃棄物
① 現状	産業廃棄物の種類								
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
② 計画	産業廃棄物の種類								
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
（これまでに実施した取組）									
【目標】									
① 現状	産業廃棄物の種類								
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
② 計画	産業廃棄物の種類								
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t	t
（今後実施する予定の計画）									

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度（6年度）実績】		廃プラスチック	紙くず	木くず	動植物性残さ	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類	建設混合廃棄物
① 現状	産業廃棄物の種類								
	全処理委託量	2.67 t	9.81 t	1.38 t	4.00 t	6.68 t	4.81 t	1,339.05 t	10.89 t
優良認定処理業者への処理委託量									
再生利用業者への処理委託量									
認定熱回収業者への処理委託量									
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量									
② 計画	産業廃棄物の種類								
	全処理委託量	0.60 t	t	t	t	t	t	t	t
優良認定処理業者への処理委託量									
再生利用業者への処理委託量									
認定熱回収業者への処理委託量									
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量									
（これまでに実施した取組）									

② 計 画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	紙くず	木くず	動植物性残さ	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず陶磁器くず	がれき類	建設混合廃棄物
	全処理委託量	2.00 t	8.00 t	1.00 t	4.00 t	6.00 t	4.00 t	960.00 t	10.00 t
	優良認定処理業者への処理委託量								
	再生利用業者への処理委託量	2.00 t	8.00 t	1.00 t	4.00 t	6.00 t	4.00 t	960.00 t	10.00 t
	認定熱回収業者への処理委託量								
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量								
	産業廃棄物の種類	石綿含有産業廃棄物							
	全処理委託量	0.00 t							
	優良認定処理業者への処理委託量								
	再生利用業者への処理委託量	0.00 t							
	認定熱回収業者への処理委託量								
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量								
(今後実施する予定の取組)									
再生利用が可能な廃棄物については、再生利用業者への処理の委託を検討していく。									
※事務処理欄									

第 面

について